

→明智光秀「愛宕百韻」の虚と実を西国街道に訪ねる

2019. 4. 14 (日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第 544 回 参加報告

光秀は、近江坂本城をめざす途中、伏見を過ぎた小栗栖村で、土民の襲撃を受けて負傷し、介錯され亡くなったとされています。どの道を辿って、坂本へ敗走しようとしたのでしょうか。途中、西国街道山崎宿・東黒門碑の近くに東へ折れる道があり、この道は鳥羽街道へ通じています、とガイドさんに教えて貰いました。光秀は、心折れ



山崎合戦古戦場の碑

て、この道を思い足を引かずって逃げて行ったのかもしれませんが。鳥羽街道から桂川を渡って伏見へ入り、小栗栖村へ。そして中山義秀によると、小栗栖で落ち武者狩りの百姓に竹槍で刺され、深手を負った光秀は、家臣・溝尾茂朝の介錯によって自害したと書いています。介錯を頼むときに、溝尾に坂本城で待つ妻・熙子に遺言を托したとも……。



東黒門跡

西国街道山崎宿の東黒門跡からは、桜の広場公園(晴天時は、昼食会場の予定だった)と、山崎聖天・観音寺(雨で石段が濡れ危険で、参拝せず)の間の道を通り、JRの線路を渡って大山崎町歴史資料館へ到着しました。雨天の場合の昼食場所を資料館の1階に確保してくれていました。昼食の後、横井先生の講演、それから2階へ上がり資料館の館長から説明をお聞きし、こうして、ウォーキングは、無事終了しました。

では、なぜ光秀は、本能寺に、信長を討つというリスクをとったのでしょうか？

中山義秀作『咲庵(しょうあん)』では、光秀は、本能寺に向かう途中、部下の問いに対して「その鬱憤は、貴様のそこにも棲んでいよう。戦国の虫ぢやわい」と言わせています。司馬遼太郎作『国盗り物語』の信長編では、「ときは今あめが下知る・・・」を「土岐いま天下を知る・・・」と考え、明智の天下取りの歌であり、本能寺の変は信長に対する謀反だったとしています。(土岐とは、明智光秀のこと)

さて、愛宕百韻の光秀の発句。「ときは今 あめが下しる 五月哉」は何を意味しているのでしょうか。皆さんもこのなぞ解きに、挑戦してみてください。私は、光秀は、誰かに利用されたのではないかと推理します。

<報告：池内 洋>